

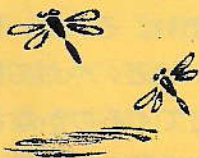
いしかれん だより

第45号

2009.8

石川県精神障害者
家族会連合会
〒920-8201 金沢市鞍月東2丁目6番地
石川県こころの健康センター内
TEL (076) 238-5761
FAX (076) 238-5762

家族の支えから社会的な支援へ



石川県こころの健康センター

担当課長 北村 義文

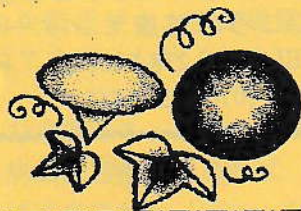
2008年(平20)の全国精神保健福祉会連合会(みんなねっと)全国精神保健福祉家族大会において、川崎洋子理事長は精神に障害のある人々(以下、当事者という)の親亡き後の生活保障について、今もって何ら解決していないと訴えています。社会福祉の諸制度が充実してきているとはいえ、当事者は家族に支えられて生活している状況は変わりありません。地域で生活するために、家族の支えのみならずさまざまな社会的な仕組みが必要です。

そのためには、医療費の心配がなく治療できることが前提です。1965年(昭40)東京都の家族会代表等が厚生大臣(当時)に医療費の全額国庫負担など7項目の要望を提出しています。現在は上限があるとはいえ1割の自己負担が課せられます。石川県には「心身障害者医療費助成制度」があり身体障害、知的障害の人が対象になっていますが、当事者は対象となっていません。障害者基本法の1993年(平5)改正で同法の対象に従来の身体、知的障害の方に、精神に障害がある人も加えられました。この法改正から約15年たちましたが、現在も医療費助成制度からはずされています。医療費の自己負担(入院も含め)について家族や当事者の苦しい声を聞くにつれて、すみやかに、この医療費助成制度の対象とすべきだと考えます。

次に、発病や再発した場合に、受診を拒み医療機関に連れて行くことができない場合があります。どのように医療につなげればよいのか、家族の心労は大変なものです。呉秀三の名著『精神病者私宅監置ノ実況及び其統計的観察』(1918年(大正7))において、入院させる場合の困難について述べられています。例えば、だまして連れて行き入院となったとしても、患者は家族に対して、押さえきれない恨みを持つため注意すべき事だ。資力あるものは当事者を自動車、人力車などを用いて運ぶが、手足をひもで拘縛されている。資産なきものは、当事者の手を縛り腰に縄を結び、徒歩にて引率するものいる、あたかも、警官が罪人を護送するがごときと述べています。現在はこのような光景はありませんが、「多クノ家族ノ苦慮スル所」(同書)は当時と変わっていないのではないのでしょうか。

この問題を含め地域で安心して暮らせるための医療、福祉の公的システムを早急に構築することが必要だと思います。24時間、365日対応、家庭全体を視野にいたした支援体制が求められます。その場合、相談のみではなく、必要であれば、実際に訪問し支援をするシステムが必要でしょう。さまざまな提言や各地での取り組みがなされていますが、具体的な制度として実現するために予算が重点的に配分されることを願っています。

家族会への応援歌 〜”自称” 熱烈サポーターから〜



講師：金沢医科大学・看護学部

教授 北岡 和代 先生

皆さんお久しぶりです。いま総会で聞きながら皆様とのお付き合いの始まりがいつだったかなあとおぼえて確か、平成8年にまだ医科大で精神科の病棟で、一看護師として働いていたときに、この石家連の総会の案内がナースステーションにあったのをたまたま目にして注目してしまいました。何故だか惹かれるものがあった、ここへ来てしまいました。そのときが、私と地域の皆さんとの出会いのスタートでした。そのとき、なごみの郷のメンバーさん2人のお話を聞きまして、堂々とご自分の病気のことを隠さずに話している姿に、まさに目から鱗でした。病棟にいと、もう駄目じゃないかと非常に否定的なイメージでとらえていたのですが、こんなにすごくなるんだということが本当にわかりまして、そこから、いろんなところへ出かけて行くことになりました。

今日は、この機会に家族会の皆さんに、私なりの応援歌を送りたいなあとおぼえました。自称です。「自称熱烈サポーターから、今日は私なりの応援歌を送って元気を送ることが出来たらいいなあ」とおぼえます。とは言うものの、今日は、県の看護大で教諭をしていたときの、太鼓判を押せる隠れサポーターを紹介したいとおぼえます。

私が直接手がけた12人を紹介しようとおぼるのは、この子達は私が太鼓判を押した精神に障がいを持った人へのかくれサポーターであるとおぼえているからです。そういう意味で一人ひとり紹介したい。そもそも私の主な仕事は患者さんにとって、「いいな」とおぼえる看護師を育てることが、一番メインの仕事です。精神に障がいのある人に偏見を持たない、差別をしない、

大切に扱う、という極く普通のこと、普通に出来る看護師を育てたい。それは、皆さんはどこに居るか分からないけど、やがて皆さんのサポーターとして、出てくるのかなとおぼえています。そういう意味で私の太鼓判12人を紹介したいとおぼえます。

最初に精神に障がいのある人のことについて講義をして、ある程度理解が深まったときに、病棟に実習に行ったり、地域の実習にいたり、デイケアの実習に行ったりして、実際にそのような方達にお会いして自分の考えとか、やることを深めていく。4年生になると、自分が習ったことを現場でみて、さらに学ぶ中で、いろいろな疑問を持つわけです。こんな看護でいいんだろうかとか。自分でなにか回答が出せないだろうか。どんな看護をしたらいいのだろうか、と考えて、いろいろな問題を持って4年生になって成長してくる。それで、4年生になると何人かの学生の卒業研究を指導します。私は実際に直接12人の指導をしました。

こんなことがやってみたいということの中で、第一は、精神に障がいのある人に対する否定的なイメージとか、考え方、受け入れ方とかいわゆる偏見について、どうして偏見があるんだろうとか、偏見を無くすにはどうしたらいいんだろうという疑問が出てくる。

それで、①最初は小松のメンボラ（メンタルヘルスボランティア）の人を対象に、メンボラの方は地域の人とどこが違うのだろうか。「精神障がい者に対するイメージ・考え方と受け入れについて」いろいろ研究して、納得して卒業していききました。

そのあとで②、実際に自分が住んでいる地域住民

アを対象に偏見についての研究をしてくれました。

③同じく会社員、会社の社長が、一緒に仕事をする精神障がいのある人をどのように考えているのかを研究してくれました。

次に④一般病棟の看護師がどのようなイメージを持っているんだろう。と対象を変えて、精神に障がいを持っている人への偏見について研究してくれました。

それから⑤、子どもを持つ親は、小さいときから精神に偏見をもたせない育て方をすればいいんだ。ということで、幼稚園児を持っている親御さんはどう思っているんだろうか。と、興味を抱いてくれた学生がいて、自分がアルバイトをしている幼稚園に頼んで、幼稚園に送ってくる親御さんをつかまえて、研究してくれた子がいました。

後は⑥家族の方に実際にお話を聞かせて頂いて、我が子が最初に精神科の受診に至るまでの気持ち、苦勞を描き出したいということで何人かの方に協力して頂いて、面接してそれを自分なりに分析したものをまとめました。

⑦外来に通院している人は、外来において受けるサービスには、どんなサービスを求めているんだろう、実際にお話を聞いて、明らかにしたい。という「外来において求める看護サービス」ということで、実際に協力してくれるメンバーさんを募って、お話を何人かに聞いてまとめました。

⑧鬱病の人にとっては「気分が逆に落ち込む声かけ」と、「気分が少し良くなって安心できる声かけ」と両方ありますね。それが、教科書よんでも頑張っただけということと言わないということは分かるけれど、それ以上に具体的にどんな言葉掛けをしたらいいのか。どんな言葉掛けをしてはいけないのかを知りたい。それをまとめてくれました。実際にいろんな言葉掛けによって、相手がどういう気持ちになるか。とい

うことも説明を付けて書いてあるので学生がよんでも、なるほどと、私が読んでも、なるほどと思うのですね。

あとは、⑨実際に退院がなかなか進まない、学生も実際にご本人達が退院ということはどう思っているのか、退院したいと思うけれど、どういうふうに退院のイメージを描いているのか、退院にまつわるいろんな事を知りたいということで、病棟へ実習が終わってから行きまして、一人ひとり声かけて、協力してくれる入院患者さんを募って、何人かの意見をまとめて、「退院移行と退院についての考え方」ということで、研究をしてくれました。

あとは、⑩実際の精神科の看護師さんのストレス。どんなストレスを抱えて頑張っているんだろう。そのストレスにどう対処しているんだろう。患者さんとの関係で、いつもいい関係を持てる訳ではないので、患者さんとの関係でストレスって何だろう。で調べてくれた子もいます。

⑪精神科病院全部にお願いして、家族を支援するプログラム、所謂家族教室、一体石川県のレベルはどれ位なのということで、日精看の役員の方全部集まるときに乗り込んで行って、アンケートさせて貰って、一つ一つの病院にアンケートを頂いて、石川県の病院での家族教室の実態、そこで看護師さんがどんな活躍をしているのかということをもとめてくれました。

最後に⑫、「精神障害者家族会の運営と課題について」を研究してくれました。調査内容は、家族の実態として、家族の年齢、年収、家族会への入会、家族会の運営等について研究しています。

以上12人、人数は少ないです。でも、私の仕事はひとりでも、ふたりでも家族のサポーターを育てるのが仕事だと思っていますので、12人いいのがいるなあと、皆さんにご紹介したいなあと、今日は話しに来ました。

* この後、「家族会の運営と課題について」北岡先生から学生さんへ変わって、報告していただきました。

今回は紙面の都合で割愛させていただきますが、石家連の皆様には、次の機会にお知らせしたいと思っております。

豆知識

Q 統合失調症だと、生命保険に加入することはできませんか。

A どんな病気でも、薬を飲んでいて、通院している病気が治療中のあれば、生命保険に入ることは出来ません。また、2年以内に入院・手術があれば入れません。しかし、無選択という保険を扱っているところもあります。くわしくは、生命保険協会相談室

TEL: 03-3286-2648

「病気を隠す」ということについて

皆さんどのように考えられますか。このような意見もありますので皆さん一緒に考えましょう。

- ・「作業所のたより」に本人はフルネームで名前を書くので、校下に配るのに何で書くのかと聞くと、「別に隠す必要はない。恥ずかしいことではない」と言うので、「まあいいや、今更別に」と思っている。
- ・隠れていなくてはならない病気ではない。
- ・でも、子どもの結婚とか、みんな嫌がるでしょ。
- ・隠している間は、大事なもの（人）を守っている時間であり、隠さなくてもよい自分を育てている時間でもあると思う。
- ・ほかの人は「統合失調症」のことを知らないの、言うだけで理解して貰うこと自体が無理。
- ・病名まで言う必要がないので、あえてオープンにしていない。
- ・隠す必要はないと思う。オープンにした方が得るところは多い。オープンにしたことで、理解してもらって、支援につながった。
- ・町会の役員会の席上で「うちの子はこんな病気です」と言われたAさんは偉いね。
- ・親が町会で孤立しないように、いろんな行事に積極的に参加しておくことも大事。
- ・「親亡きあともこの家に住み続けたい」と言う本人の意見が多いので、近所の人々が心配しないように、病気の理解と制度をしっかり知って貰う機会が必要。(けやきの森)

お知らせ



* 平成21年度 家族会と行政との懇談会・病院長との懇談会を11月12日(木)に予定しております。

* DVDをNHK厚生文化事業団から頂きました。

- ① 快復力を高める接し方
- ② 快復力を高める会話
- ③ 家族SSTの進め方

利用してください。

平成21年度

北信越ブロック家族会福井大会

精神保健福祉促進研修大会

・テーマ 地域で安心してくらすために
みんなで力を合わせよう!

開催日: 平成21年10月1日(木)～2日(金)

開催地: 福井県あわら市グランディア芳泉

主催: NPO 全国精神保健福祉会連合会
福井県精神保健福祉家族会連合会

参加問い合わせ先: 単会会長・石家連事務局

みんなねっと長崎大会

第2回全国精神保健福祉家族大会

長崎から家族会活動の 新しい息吹を!

日時: 平成21年10/29(土)～30(日)

参加費: 3,000円

場所: 長崎ブリックホール(長崎市)

参加問い合わせ先: 単会会長・石家連事務局

編集後記

- ・「病気を隠すということについて」の意見を各単会リレーで載せていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。(紺谷)
- ・今年の夏は例年になく気候です。長雨の後の日照りが続き、我が家の小さな畑の夏野菜たちは不作ですが、秋のイモ堀りを楽しみに、残暑を乗り越えていきたいです。(広瀬)